

③	②	①
かたち	しまったから	あき
まんまる	はぐれて	
	いろいろ(い)	
	いろいろ	

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしよに かかれて います。

① すすしい あきの よるです。子ぐまの くう

たは、とぼとぼと 山みちを あるいて いました。三日まえ、^②くうたは みちに まよって

おかあさんと はぐれて しまいました。くうた はとつぜん ひとりぼっちに なって しまいました。

空を 見あげると、^③ぽっかりと きいろい まんまるの 月が ひかっています。

「おかあさん。」

くうたは、さみしく なって お月さまに よびかけました。すると へんじが かえって きたのです。

④	③	②	①
いえ	イ	キャッチボール	三人

「かいせつ」

(1)と(2)と(4)は文しょうのつぎのばしょにかかれて います。

① たかしはのりおと、② グラウンドでキャッチボールをしてあそんで います。そこへ① ゆうたがやって きました。たかしとのりおは、キャッチボールをして いた手を とめて いました。

「ゆうたも いっしょに あそぼうよ。」

「けれども ゆうたは、

「いやだ。」

と ④ いって、いえへ ④ かえって しまいました。

(3) □のまえで さそわれたのに ゆうたは ことわって いるので、「けれども」が 入ります。

③	②	①
五日まえ	おにいさんと しまったから はぐれて	山みち

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしよに かかれて います。

ふゆの さむい よるです。うさぎの ぴよんこ子は、^①とぼとぼと ^②山みちを あるいて いました。^③五日まえ、^②ぴよん子は ^③みちに ました。よって おにいさんと はぐれて しまいました。ぴよん子は とつぜん ひとりぼっちに なったのです。

空を 見あげると、ぽっかりと きいろい まんまるの 月が ひかっています。

「おにいさん。」

ぴよん子は、さみしく なって お月さまに よびかけました。すると へんじが かえってきたのです。

③	②	①		
小学校の	なわとび	かずや	ゆう子	みな子
校てい				

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしよに かかれて います。

① みな子は ① ゆう子と ②・③ 小学校の 校ていで なわとびを して あそんで います。そこへ ① かずやが やって きました。

みな子と ゆう子は、なわとびを しながら いました。

「かずやも いっしょに あそぼうよ。」
けれども かずやは、

「いやだ。」

と いった、いえへ かえって しまいました。



③	②	①
ともだち	ウ	きたのくに

「かいせつ」

①と③は 文しょうの つぎの ばしょにかかれて います。

①
きたの くにに 王さまが いました。王さまは とても お金もちなので、ほしい ものはすべて 手に 入りました。

しかし 王さまは おしろの 中に いつもひとりぼっちで いるので、ちっとも たのしくありませんでした。

ある日、王さまは つぶやきました。

「ともだちが ほしいなあ。」

③
ほかのものは いくらでも 手に 入るのですが、ともだちだけは お金で かう ことが できません。

②
□の まえは よい ことで、□の あと は よくない ことが かいで あるので、「しかし」が 入ります。



③	②	①
ともだち	ひとりぼっちで いつも おしろの 中に いるから	女王さまは しまに すんで いて、 お金を たくさん もって いる人

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしよに かかれて
います。

①
みなみの しまに 女王さまが
いました。女
王さまは お金を とても たくさん
もって
るので、ほしい ものは
すべて 手に 入り
ました。

②
しかし、女王さまは
いつも おしろの 中
に ひとりぼっちで
いるので、ちっとも たの
しく ありませんでした。

③
ある日、女王さまは つぶやきました。
「ともだちが ほしいわ。」
ほかのものは いくらでも 手に
入るのですが、
ともだちだけは お金で
かう ことが できま
せん。